

企画展

映画が恋した世界の文学



2015
12.18(金)
～
2016
3.13(日)





映画が恋した世界の文学

—シェイクスピア、ドストエフスキーから
A・クリスティ、S・キングへ



企画展観覧料金（）内は団体料金 一般 200円（140円） 小・中学生 100円（70円）

「映画」と「文学」あるいは「原作」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？
フランスの知性溢れる貴公子、ジェラルド・フィリップが女性たちを虜にする主人公を演じた『赤と黒』、あるいは可憐なオリヴィア・ハッセーが忘れがたい『ロミオとジュリエット』、それとも…？

作品の出来を比べてしまいがちな原作文学とその映画化ですが、例えば、ヴィヴィアン・リーなど名だたる女優たちがヒロインを演じてきた『アンナ・カレーニナ』は、トルストイの原作は読んでいなくても映画でその悲恋物語を知る人も多いでしょう。また逆にアガサ・クリスティやスティーブン・キングといった人気作家の場合、原作を読んでから映画化作品に興味を持った経験もあるのではないのでしょうか。



古典的文学の名作から同時代のベストセラー小説まで、いつの時代も映画は文学から物語を借り受け、文学は映画化されることでさらに読者を広げてきました。本展では、そんな両者が迎ってきた豊かで親密な関係を、ポスター資料の展示と文学を原作に持つ映画化作品の上映から見つめ直します。昔読んだあの原作を久しぶりに手に取ってみよう、あるいは読みそびれていたあの小説に挑戦してみよう、そんな気持ちを思い出していただければ幸いです。

協力：東京国立近代美術館フィルムセンター



レイアウト・デザイン／李潤希

<イベント情報> 料金：一般 1,000円、小・中学生 500円

トークイベント **2月20日(土) 14:00-** チケット発売日：1月16日(土)

「映画が文学を変える」ゲスト：池澤夏樹さん

作家・詩人として文壇の最前線で著作活動を続けている池澤夏樹氏。氏は若い時分、ギリシャに在住した経験などから1979年、テオ・アンゲロプロス監督『旅芸人の記録』の字幕翻訳を手掛け、以後すべてのアンゲロプロス作品に関わってきました。また近年では『池澤夏樹＝個人編集 世界文学全集』や『池澤夏樹の世界文学リミックス』『現代世界の十大小説』など、古めかしいと思われがちな世界文学を現代の新たな地平から捉え直す作業に従事されています。今回、映画と文学双方の分野で精力的に仕事を続けていらっしゃる池澤夏樹氏に、文学と映画を共に味わい、愉しむ秘訣をお話いただきます。



早春の調べ **3月5日(土) 14:00-** チケット発売日：2月20日(土)

「ハリ・ライムのテーマ」とともに～ギターで奏でる名作・名曲&『第三の男』の知られざる誕生秘話～ ゲスト：内藤敏子さん

<プロフィール>ギター奏者。武蔵野音楽大学短期大学部卒業後、スイスに留学。チューリッヒ市コンセルバトワールなどで学び、十数年間世界的ギター奏者。コーザに師事した。帰国後は、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団などオーケストラとの協演、「NHK 名曲アルバム」、「題名のない音楽会」などに出演する他、日本初のギター教育機関を設立し、広く普及・育成に尽力している。親交のあったアントン・カラス家からは『第三の男』に関する多くの未公開資料を託され、2001年に著書『激動のウィーン「第三の男」誕生秘話——ギター奏者アントン・カラスの生涯』を出版。秋篠宮妃紀子殿下のギター教師としても知られている。日本ギター協会会長。



協力：鎌倉クラシック洋館の会

映画鑑賞料金

一般 1,000円

小・中学生 500円

チケット発売日（前月の第3土曜日より発売）

1月の上映作品・・・12月19日(土)

2月の上映作品・・・1月16日(土)

3月の上映作品・・・2月20日(土)

※映画鑑賞券のご提示で企画展もご覧いただけます。 ※販売枚数に達した場合、当日券の販売はございません。

チケットのお取り扱い店／記念館窓口・たらば書房・島森書房（鎌倉店）・上州屋（大船駅前）

ウエスト・サイド物語

1月5日(火) 10:30-/14:00- 1月6日(水) 14:00- 1月7日(木) 14:00-



1961年/アメリカ/カラー/35mm/152分
原作:ウィリアム・シェイクスピア「ロミオとジュリエット」 監督:ロバート・ワイズ、ジェローム・ロビンズ
出演:ナタリー・ウッド、リチャード・ベイマー、ジョージ・チャクリス

シェイクスピアの古典戯曲「ロミオとジュリエット」を題材に、舞台を現代に移し、不良少年グループ同士の対立から起こる青春悲劇をミュージカル映画に仕立てた不朽の名作。その年のアカデミー賞を総なめにした。

昼下りの情事

1月8日(金) 10:30-/14:00- 1月9日(土) 14:00- 1月10日(日) 14:00-



1957年/アメリカ/白黒/35mm/134分
原作:クロード・アネ「アリアヌス」 監督:ヒリー・ワイルグー
出演:オードリー・ヘプバーン、ゲイリー・クーパー、モーリス・シュヴァリエ

原作者クロード・アネの代表作「うたかたの恋」(原題:マイヤーリング)のテレビ映画版でも主演を務めたオードリー。彼女が得意とした欧州が舞台の文芸ロマンスなので、かつ女優としても全盛期にあったオードリーの魅力が存分に堪能できる一作。

パルムの僧院

1月19日(火) 10:00-/14:00- 1月20日(水) 14:00- 1月21日(木) 14:00-



1947年/フランス/白黒/ブルーレイ/173分
原作:スタンダール 監督:クリスチャン・ジャック
出演:ジェラルド・フィリップ、マリア・カザレス、ルネ・フォール

フランスの文豪、スタンダールの代表作を冒険活劇に仕立て映画化。あまたの女心を虜にする罪作りな美男子だが、一人の女性を一途に想い続けるという、ジェラルド・フィリップのキャラクターが確立した作品である。

エデンの東

1月22日(金) 10:30-/14:00- 1月23日(土) 14:00- 1月24日(日) 14:00-



1955年/アメリカ/カラー/35mm/115分
原作:ジョン・スタインベック 監督:エリア・カザン
出演:ジェームズ・ディーン、ジュリー・ハリス、ジョー・ヴァン・フリート

旧約聖書の「カインとアベル」の物語を下敷きにしたスタインベックの同名小説を映画化。父親からの愛を切望して葛藤、反発する息子をジェームズ・ディーンが演じ、一躍脚光を浴びるが、同年自動車事故により早すぎる生涯を閉じた。

赤と黒

2月2日(火) 13:00- 2月3日(水) 13:00- 2月4日(木) 13:00-



1954年/フランス/カラー/ブルーレイ/193分
原作:スタンダール 監督:クロード・オータン＝ララ
出演:ジェラルド・フィリップ、ダニエル・ダリユー

世界文学史上に燦然と輝く、スタンダールによる名作の映画化。ナポレオン失脚後、王政復古時代のフランスを背景に、野心に燃えるジュリアン・ソレルを『パルムの僧院』に続きジェラルド・フィリップが見事に演じている。

復活

2月5日(金) 10:30-/14:00- 2月6日(土) 14:00- 2月7日(日) 14:00-



1962年/ソ連/白黒/35mm/135分
原作:レフ・トルストイ 監督:ミハイル・シバitzェル
出演:クマラ・シヨミナ、エフゲニー・マトベーフ

トルストイの代表作を祖国ソ連で映画化、日本では1965年にATGで公開された。無実の罪で裁判にかけられたカチューシャと、かつて彼女の処女を奪った陪審員のネフリュードフを巡る物語を、「裁くなかれ」という原作の思想に従って忠実に再現している。

さよならをもう一度

2月16日(火) 10:00-/14:00- 2月17日(水) 14:00- 2月18日(木) 14:00-



1961年/アメリカ/白黒/35mm/120分
原作:フランソワーズ・サガン「ブルームスはお好き」 監督:アナトール・リトヴァク
出演:イングリッド・バーグマン、イヴ・モンタン、アンソニー・パーキンス

デビュー作「悲しみよこんにちは」から5年、サガンが23歳で執筆した「ブルームスはお好き」を豪華キャストで映画化。ブルームスの交響曲第三番第三章から使用した主題曲を背景に、二人の男性の間で揺れる中年女性をバーグマンが円熟した演技で魅せる。

太陽がいっぱい

2月19日(金) 10:30-/14:00- 2月20日(土) 10:30- 2月21日(日) 14:00-



1960年/フランス＝イタリア/カラー/35mm/118分
原作:パトリシア・ハイスミス 監督:ルネ・クレマン
出演:アラン・ドロ、マリー・ラファレ、モーリス・ロネ

人気ミステリー作家、ハイスミスの代表作の映画化でニーノ・ロータによる音楽の美しい調べと、主演のアラン・ドロンの端正な顔立ちが人気を博し、日本でも大ヒットを記録した。映画史上に残る名作として知られている。

嵐が丘

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵

3月1日(火) 14:00- 3月2日(水) 14:00- 3月3日(木) 14:00-



1939年/アメリカ/白黒/35mm/104分
原作:エミリー・ブロンテ 監督:ウィリアム・ワイラー
出演:ローレンス・オリヴィエ、マール・オベロン

世界文学史上に残る名作の最初の映画化であり、主演のローレンス・オリヴィエが初めてアメリカ映画に出演した作品。映画では原作にある復讐劇の要素は弱められ、荒野を舞台にヒースクリフとキャサリンの悲恋物語が描かれる。

第三の男

3月4日(金) 10:30-/14:00- 3月5日(土) 10:30- 3月6日(日) 14:00-



1949年/イギリス/白黒/35mm/105分
原作:グレム・グリーン 監督:キャロル・リード 音楽:アントン・カラス
出演:ジョセフ・コットン、アリダ・ヴァリ、オーソン・ウェルズ

字幕翻訳者の戸田奈津子さんをして生涯の一本と言わしめた映画史上の傑作。ビールのCMでお馴染みのテーマ曲をはじめ、全編を彩るチャーターの音色、光と影のコントラスト、並木道のラストシーンなど、何度見ても忘れがたい作品。

シネマセレクション 文学と映画の幸福な出会い



映画鑑賞料金

一般1,000円/小・中学生500円
チケット発売：2月20日(土)

企画展「映画が恋した世界の文学」の関連上映では、文学作品を原作に持つ映画を上映してきましたが、映画と文学の関わりはそれだけにとどまりません。今回のシネマセレクションでは、「朗読」や「翻訳」といった文学ならではの作業を主題にしたものや、作品内で文学と映画が幸福な出会いを果たしている映画を上映します。両者の一筋縄ではいかない奥深い関係をお楽しみください。

愛を読むひと

2008年/アメリカ/カラー/35mm/124分
原作：ヘルマン・ヘッセ「朗読者」 監督：ステイヴン・ダルドリー
出演：ケイト・ウィンスレット、レイフ・ファインズ、デヴィッド・クロス



1958年のドイツで出会った15歳の少年マイケルと21歳年上のハンナ。二人が本の朗読を通して愛を深めていく前半から、突然姿を消したハンナとマイケルが時を経て、ナチスの戦犯を裁く場で被告と傍聴人という立場で再会する後半へ、映画は大きく転換する。重く悲しい物語にあって朗読がもたらす救いに心揺さぶられる作品。アカデミー賞主演女優賞受賞。

ボヴァリー夫人とパン屋

2014年/フランス/カラー/ブルーレイ/99分
監督：アンヌ・フォンテーヌ
出演：ファブリス・ルキエーニ、ジェマ・アータートン



パン屋を営むマルタンの愛読書は、フローベールの『ボヴァリー夫人』。隣に引っ越してきた美しい人妻の名が偶然にも「ジェマ・ボヴァリー」だったことからマルタンは胸の高鳴りが抑えられない。ところがジェマの生活が本当にボヴァリー夫人の物語をなぞり出し…。フランス、ノルマンディー地方の美しい風景の中で繰り上げられる、ほんのりエロティックでくすりと笑える上質な恋愛喜劇。

ドストエフスキーと愛に生きる

2009年/スイス/ドイツ/カラー/白黒/ブルーレイ/93分
監督：ヴァレディン・イエンドレイコ
出演：スヴェトラナ・ガイヤー、アンナ・ケッテ



生涯をかけてドストエフスキーの5冊の長編小説をドイツ語に訳し、高い評価を受ける84歳の翻訳家スヴェトラナ・ガイヤー。彼女の生活の静謐な営みとその中で紡がれていく言葉たち。だがスヴェトラナのたおやかな眼差しの中には、激動の時代を生きた数奇な運命があった…。2011年の山形国際ドキュメンタリー映画祭では『五頭の象と生きる女』というタイトルで上映され、市民賞と優秀賞をダブル受賞した。

上映スケジュール

	10:30-	14:00-
3月9日(水)	愛を読むひと	ボヴァリー夫人とパン屋
3月10日(木)	ドストエフスキーと愛に生きる	愛を読むひと
3月11日(金)	ボヴァリー夫人とパン屋	ドストエフスキーと愛に生きる
3月12日(土)	愛を読むひと	ボヴァリー夫人とパン屋
3月13日(日)	ドストエフスキーと愛に生きる	愛を読むひと

《優秀映画鑑賞推進事業》

阪妻、千恵蔵、右太衛門に長谷川!!~スター競演の時代劇特集~

映画鑑賞料金：一般500円 小中学生250円(入館料含む)
チケット発売日：12月1日(火)

今年の優秀映画鑑賞会のテーマはズバリ「時代劇」です。年の瀬の気せわしい季節ですが、大スタアたち揃い踏みの立ち回りを堪能して年を忘れ、陽気にお正月をお迎えください。各作品1回ずつの上映ですので、お見逃しなきようご注意ください!

『銭形平次捕物控 人肌蜘蛛』

12月18日(金) 10:30~



1956年/大映/カラー/35mm/82分
監督：森一生
出演：長谷川一夫、山本富士子、市川雷蔵

『大江戸五人男』

12月18日(金) 14:00~



1951年/松竹/白黒/35mm/132分
監督：伊藤大輔
出演：阪東妻三郎、市川右太衛門、山田五十鈴

『旗本退屈男』

12月19日(土) 10:30~



1958年/東映/カラー/35mm/108分
監督：松田定次
出演：市川右太衛門、桜町弘子、片岡千恵蔵、大河内伝次郎、月形龍之介

『赤穂浪士』

12月19日(土) 14:00~



1961年/東映/カラー/35mm/150分
監督：松田定次
出演：片岡千恵蔵、市川右太衛門、中村錦之助、大河内伝次郎、東千代之介、大川橋蔵

チケット取り扱いお問い合わせ先

◆たらば書房

0467-22-2492

◆島森書店 鎌倉店

0467-22-0266

◆上州屋(大船駅前の文房具店)

0467-43-1000

Kamakura City Kawakita Film Museum 鎌倉市川喜多映画記念館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

TEL:0467-23-2500

HP: <http://www.kamakura-kawakita.org>

開館時間

9:00~17:00
(入館は16:30まで)

*駐車場設備がありませんので、公共交通機関をご利用ください

休館日

毎週月曜日
(祝日の場合は開館)

12月29日(火)~1月3日(日)、1月12日(火)
※1月4日(月)は臨時休館します。

鎌倉市川喜多映画記念館

